

会議結果報告書

令和5年7月10日

会議の名称	令和5年度第2回志木市児童福祉審議会
開催日時	令和5年7月10日（月）午後1時30分～3時30分
開催場所	市役所 大会議室3-3
出席委員	佐藤聡子会長、大熊啓太副会長、磯真砂子委員、志村亜希子委員、白川美津江委員、中村和子委員、中村勝義委員、浅見智子委員、阿部望委員 (計9人)
欠席委員	藤井加奈恵委員、細田大二郎委員、高橋篤子委員 (計3人)
説明員職氏名	杉田保育課長、大野健康増進センター所長、清水子ども支援課副課長、松永子ども支援課主任 (計4人)
議題概要	1 開会 2 諮問 第3期志木市子ども・子育て支援事業計画の策定について 3 議題 第3期子ども・子育て支援事業計画のアンケート調査について 4 その他 第1回志木地区児童センター整備基本計画検討委員会報告 5 閉会
結果	審議内容の記録のとおり (傍聴人なし)
事務局職員	近藤子ども・健康部長、飯田子ども支援課長、杉田保育課長、大野健康増進センター所長、金澤健康増進センター副所長、清水子ども支援課副課長、平間子ども支援課主査、川幡保育課主査、松永子ども支援課主任、安井子ども支援課主任

審 議 内 容 の 記 録

1 開会

佐藤会長が開会を告げる。

志木市情報公開条例第5条第1項により市の附属機関の会議は原則公開であると規定されているため、本審議会は公開の対象となる旨の説明を行った。

2 諮問

香川市長より第3期志木市子ども・子育て支援事業計画について諮問した。

3 議題

第3期子ども・子育て支援事業計画のアンケート調査について

- ・事務局よりアンケート調査実施概要及び子育て支援アンケートについて説明を行った。

【質疑】

会 長：ご意見、ご質問はないか。

委 員：実際のアンケートは、分かりやすい質問になるのか。

事務局：本日の資料では大きな設問だけを抜粋して一覧にしている。

会 長：子育て全般のところ、虐待経験のような設問は含まれないのか。

事務局：調査票を設計するときに検討したい。

委 員：「ほとんどの友達が持っているおもちゃ・ゲーム機」についての設問で、「ほとんどの友達」の選択肢をどう捉えるかが難しい。子どもは、ほとんどが持っていないなくても、「みんな持ってるよ」と言う。また、「学校のことや勉強のことについて」の「あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思うか」についての設問は、中学生であれば分かるかと思うが、小学5年生では分からない子どもが多いのではないかと。さらに、「いろいろな人とかかわりについて」の「あなたの一番仲が良い友達について」とあるが、友達についてどのような内容を聞くのか。

事務局：これは埼玉県調査においても聞いている項目であるため、同様の内容の設問を設ける。埼玉県の友だちについての設問には、学校の友達なのか、学校以外の友だちなのか、あとはクラブチームの友達なのかという選択肢がある。

- ・生活実態調査について、事務局が説明を行った。

【質疑】

会 長：質問、ご意見はあるか。

委 員：子どもの生活実態調査の回収率の見込みは、どの程度なのか。また、外国籍の保護者と子どもは、この設問の内容を解読し、理解することが難しいのではないか。

事務局：回収率の見込みについては、埼玉県の調査では79%だったので、同様の程度を見込んでいる。今回は学校で配布し、加えてWEB回答も併用する。

事務局：無作為抽出の中には外国人世帯が入っている可能性があるため、ふりがなの対応等、いろいろな課題があることから、今後検討したい。

委 員：「お子さんのお母さん、お父さんの仕事についてお聞きします」は大変詳しく聞いていると感じる。また、「希望する教育段階」について、これはお子さんをどの程度までの教育を受けさせたいかということだと思う。表現はこれから検討されるのだろうが、分かりやすい表現を考えていただきたい。

委 員：「子育てや教育について」において、「過去1年間において、お子さんと次のような体験をしたか」の設問について、新型コロナウイルス感染拡大による外出控えが影響しないような聞き取り方がいいのではないか。

事務局：ご意見を踏まえてアンケートの盛り込み方を検討したい。

委 員：虐待についての設問において、保護者についても、自身が虐待にあった経験があるかどうかを聞くことはできるのか。

事務局：このアンケートは貧困対策の調査なので、子育て支援の調査で盛り込めるかどうか、検討したい。

委 員：新たに加わった貧困調査の結果は、どのように計画に盛り込むのか。

事務局：第3期志木市子ども・子育て支援事業計画では、子どもの貧困対策計画を新たに盛り込むことになっているため、その結果を反映させた施策を検討したい。

委 員：「こども誰でも通園制度（仮称）」については、どのようにするのか。

事務局：国が示している調査票の案は平成26年の第1期の子ども・子育て支援事業計画の策定のタイミングで止まっている。第2期の計画作成時には、量の見込みの考え方の改正や、この設問にはこの選択肢を追加するというようなことが示され、幼児教育・保育の無償化の影響などを鑑みるような選択肢が示されたが、今現在、情報がない。

委 員：志木市が他の自治体に先駆けて取り組むということか。

事務局：今の保育園は保護者の就労や病気など、ある程度の要件がある。こど

も誰でも通園制度とは、そういったものがなくても保育園などに通えるようにするという、新しく国の方針として出た制度である。これから方向性などについて国が検討すると思われる。

委員：実現することを期待している。

委員：このアンケートの設問の中に、欠席することが多い、遅刻が多い、体がだるいなどあるが、このような状況にあるヤングケアラーが講座やアンケートに参加できない事態を防ぐ手段は考えているのか。

事務局：回答してほしい子どもが受けられないことも想定されるので、教育委員会と相談し、どのような形でアンケートに参加してもらうかを今後、調整したい。

会長：「平日の定期的な教育・保育事業の利用状況」に「現在の保育の質について満足しているか」についての設問を設けることは、保育の質に触れるのは大いに賛成する。それに加えて今後、公立園が3つから2つになっていく中で、選ぶときに重視することについて、例えば場所、保育の対応、開所時間、料金体系のどれかという設問を盛り込んでいただくと、今後の公立園の在り方を検討する上で、ニーズをくみ取れるのではないかと思う。

4 その他

・ 第1回志木地区児童センター整備基本計画検討委員会報告

「志木地区児童センター整備基本計画検討委員会」の委員を、会長として大熊副会長を推薦したことを報告し、副会長より志木地区児童センター整備基本計画検討委員会での検討事項の概要報告があった。

・ 次回の審議会は、令和5年9月7日（木）13時30分から大会議室3-3で開催する

5 閉会

佐藤会長が閉会を告げる。